日本泌尿器科學會雜誌

第 36 卷 第 1 號

昭和 19 年 (1944) 1 月

原 著

小兒ニ於ケル泌尿器科の疾患

第 3 報 小兒腎臟結核, 特ニ爾他結核トノ

關聯ニ就テ

K. Iwashita und M. Yamada: Beitrag zur Kenntnis der
pediatrischen Urologie. III. Mitteilung: Nierentuberkulose im Kindesalter.

北海道帝國大學醫學部皮膚科泌尿器科教室

教授 醫學博士 岩 下 健 三

助手 醫學士 山 田 正 己

緒 言

小兒ニ於ケル泌尿器科の疾患竝ニ之ニ關聯セル研究ヲ系統的ニ進メツ、アル岩下ハ、曩ニ本誌 31 卷ニ於テ小兒急性膀胱炎, 特ニ其ノ特發性出血性型ニ對スル私見ヲ述ベタ、又更ニ同 33 卷ニ於テハ小兒ニ於ケル靜脈注射腎盂撮影時ヘノ「レ線」斷層撮影應用ノ價值ニ就テ論ジタ。蓋シ此ノ範疇ニ屬スル研究トシテハ更ニ幾多ノ問題ガ提供セラレテ居リ、其レ等ニ就テハ今後逐次發表スル積リデ居ルガ、ソノ中デ當然檢討セラルベキモノトシテ小兒腎臟結核ガ舉ゲラレナケレバナラナイ。デ、今回ハ山田ト共ニ此ノ問題ヲ採リ上ゲテ、手許ニアル過去 16 ケ年間(大正 15 年—昭和 16 年)ノ北大ニ於ケル材料ヲ檢討シテミルコトニシタ。固ヨリ小兒腎臟結核ニ就テハ、成人ノソレトハ比較ニナラナイ程少イトハ云ヘ、既ニ内外ニ纏ツタ記述モ見ラレテハキルガ、其レ等ヲ通覽シテミルトマダマダ檢討セラルベキ余地ガ少カラズ殘サレテ居ル。殊ニ昨夏ノ新潟ニ於ケル關東東北聯合地方會ニ於テ岩下モ指摘シタコトデアルガ、之ト爾他結核就中内臟結核トノ關聯ニ就テハ少シク突込シタ記載ハ殆ド見當ラナイト云ツテモ過言デナイ。デ、我輩等ハ今回特ニカハル點ニ重點ヲ置イテ調査ヲ進メタ。因ミニ茲ニ小兒ト謂ヘルハ滿 15 歳ヲ境トシタモノデアル。

I 頻度、年齢の關係ソノ他ニ就テ

頻度及ビ年齢の關係 剖檢統計ヨリミタ小兒腎臟結核が成人ノソレニ較ベテかなりヨリ多イコトハ古クハ Dickinson, 最近デハ Klasson, Campbell (共ニ1937) 等ノ統計ヲ俟ツ迄モナク既ニ衆知ノコトデアル。然シ乍ラ、之ハ勿論小兒ニヨリ頻發スル急性粟粒結核ノ部分的症狀トシテ見ラレ爾腎臟結核ナモ包含シテノ話デアルカラ、泌尿器科的ニハ殆ド問題ニナラナイコトハ云フ迄モナイ。問題ハ日常我々ノ對象トナツテキル慢性腎臟結核ニ就テデアルガ、茲デハ成人ニ較ベテ著シクヨリ少イコトハ比較の最近ノ文獻ヲ拾ツテミテモヨク解ル(第1表)。15歳以下例ハ全腎臟結核ノ大體2—

5%ナ、10歳以下例ニナルト約1%未滿ノ小數ヲ占メテキルニ止マリ、更ニ5歳未滿例ニ至ツテハ著シク稀ニシカ見ラレテキナイ。我輩等ノ今回ノ材料ニ於テモ全腎臟結核1092例ノ中、15歳以下ハ26例(2.4%), 10歳未滿ハ夫々7, 8, 9歳ノ3例(0.27%)シカナク、5歳未滿ニ至ツテハ1例モナカツタ。云フ迄モナク幼少ナレバナル程結核ニ對スル抵抗力ノ弱イ小兒ニ於テハ、慢性ノ腎臟結核ナドガ成リ立ツニ至ラナイ前ニ全身ノ結核デ變レルカラデアアル。文獻ニ見ラレタ最年少例トシテハ Bordenhauer ノ生後3ヶ月例ガアリ、我國デハ恐ラク里見(昭14)ノ1年8ヶ月例ガソレデアラウ。

第1表 頻度及ビ年齢の關係

報告者	年 齡					備 考
	1—5歳	6—10歳	11—15歳	16—20歳	21歳以上	
腎臟結核總例數	Chesin (1935)	5 (3.0%)			141	Moskau, I. Med. Hochschule.
	富 川 (1936)	0	2 (0.3)	17 (2.7)	615	九大20ヶ年間
	大 桑 (1937)	2 (0.9)		37 (16.5)	184	金澤醫大10ヶ年間
	岩下・山田 (1943)	0	3 (0.2)	23 (2.1)	1066	北大16ヶ年間
結核腎摘出例ニ	Mathé (1936)	20 (0.4)	51 (1.0)	494 (10.5)	4133	1891—1935ノ文獻蒐集例
	中 野 (1939)	2 (0.5)	8 (2.0)	19 (5.0)	345	東大5ヶ年間
	小 泉 (1941)	2 (0.3)		79 (12.2)	673	東北大外科23年8ヶ月間
	岩下・山田 (1943)	0	2 (0.2)	15 (2.0)	700	北大16ヶ年間

性別、患側(第2表) 男兒ノ方ニヨリ多ク、左右ノ罹患率ニ大差ノナイコトハ成人ノ場合ト略々同様デアルガ、之迄ノ多クノ記述ヲ綜合シテ見ルト成人ノ腎臟結核ニ比シテ男女間ノ差違ガ稍々ヨリ著シイノデハナイカトモ思ハレル。我輩等ノ今

回ノ材料ニ於テモ、左右各々10例、兩側6例デアツタガ男兒ノ女兒ニ約2倍シテ居タ。Campbellハ小兒デハ特ニ兩側罹患例ノ多イコトヲ述ベテキルガ、斯様ナ點ハ殆ド認メラレナカツタ。

初發症狀、初診迄ノ期間 膀胱炎症狀、就中尿意頻數、排尿痛ヲ以テ初マレコト(第3表)ハ成人ノ場合ト全く同様デアリ、比較的年長兒ガ主ノ對象トナツテキタ爲カ夜尿症ヲ主訴トシタモノハ

第3表 初發症狀

	性		患 側	
	男	女	左	右
Vignard-Thevenot	21	15	16	13
Eckhorn	41	23		
植 田	15	4	11	8
北川・渡邊	24	13	8	8
中 野	14	15	13	16
岩下・山田	17	9	10	10

症 狀	尿意頻數	排尿痛	血 尿	尿排頻數	尿意頻數	血 尿	尿排頻數	尿意頻數	血 尿
例 數	6	4	1	9	3	2	1		

一例モナカツタ。初診迄ノ期間ハ最短1ヶ月、最長3ヶ年デ、1ヶ月7例、2—6ヶ月11例、1ヶ年以上7例ニナツテ居リ、一般ニ成人ニ比ベテ稍々遅ク診斷ガ確定セラレテキルノハ主トシテ小兒科醫ニヨツテ姑息的ニ治療セラレテキタ爲デア。蓋シコノ點ガ小兒腎臟結核手術ノ豫後ナ不良ニシテキル一ツノ原因ニナツテキルコトハ後ニ述ベテアル。

尿及ヒ膀胱鏡の所見 全例ガ盡ク中等度以上ノ濁尿ヲ示シテ居リ、中7例デハ肉眼的ニモ血液ヲ混ジテキタ。3例ノ中性例ヲ除クト盡ク酸性ヲ示シテ居リ、蛋白ハ全例ニ多カレ少カレ陽性デアツタ。顯微鏡的ニハスベテ中等度以上ノ白血球ガ見ラレ、中13例ニハ赤血球ガ混在シテキタ。培養動物實驗ヲ俟タズシテ結核菌ガ全26例中22例(84.6%)迄ニ見出サレタコトハ、曩ニ山田ガ發表シタ略々同年間ノ當教室ノ成人ヲモ含メタ腎臟結核512例中63.8%ノ陽性率ニ比較スルトカナリ高率ニナツテキル。同様ノコトハ東大、慶大ニ於ケル統計等カラモ明カニ看取シ得ラレルガ、強チ偶然トノミ片附ケラレナイト思フ。結核ニ對スル成人ト小兒トノ免疫程度ノ相違ガ或ハ何等カノ役割ヲ演ジテキルコトモ一概ニ否定ハ出来ナイダラウ外國ノ文獻ニヨルト幼兒ノ腎臟結核デハ食餌ノ關係カラ少數デアアルガ牛型菌ガ暴ラレテキルガ(Campbell)、我輩等ノ材料デハ此ノ點ハ検査サレテキナイカラ判明シナイ。大腸菌ノ混合感染シタモノガ1例アツタ。

膀胱鏡の検査ハ14例ニ行ツテアルガ、盡ク12歳以上例ノミデアリ、特ニツケ加ヘルベキコトハナイ。中5例デハ輸尿管「カテーテル」挿入モ行ハレテキル。泌尿器科の機械ノ著シク發達シタ今日、病幼兒デモ膀胱鏡の検査ハ勿論、輸尿管「カテーテル」挿入ノ可能ナコトハ一般ニ知ラレテキルガ文獻デ見ラレタ最年少者例トシテハ、結核例デハナイガ、生後15日ノ少女ニ行ハレテキル Bugbee 例ナドガアル。

腎臟觸診所見及ヒ腎盂輸尿管「レ線像」 元來小兒ハ腹壁ガ薄ク柔軟ナ爲ニ多少ナリト腫大シタ腎臟ナラバ成人ニ比シテヨリ容易ニ觸レルト云ハレテキルガ、我輩等ノ今回ノ材料デハ之ヲ摘出腎所見ト對照シテミルト必ズシモソウデハナカツタ。

否寧ロ Campbell 始メ Noeggerath-Nitschke モ云ヘル如ク小兒腎臟結核デハ一般ニハ觸レ得ルコトガ少ク、唯膿腫腎或ハ腎周圍炎ノ著シイ場合ニノミ觸レラレタ。即チ偏側罹患18例(不明2)中、腎臟ノ觸レタ8例ハ殆ド總テ膿腫腎カ周圍トノ癒着ノ比較的著明ナ例デアリ、兩側罹患6例デハ兩側共觸レタモノガ2例、偏側丈觸レタモノガ1例デアツタ。壓痛ハ豫想外ニ少ク全24例(不明2)中僅カニ3例ニシカ認メラレナカツタ。

腎盂輸尿管「レ線像」ニ就テハ、一體逆行性造影法ノ比較的ヤリニクイ小兒ニ於テハ靜脈注射撮影法ニヨツテ享ケタ恩惠ノ實ニ大イコトハ今更云フ迄モナイ。我輩等ノ24例(不明2)ニ於テモ中18例迄ハ之ニヨツテ始メテ的確ナ診斷ガ下サレテキル幼兒例デハ著明ナ「腸ガス」ニ遮ラレタ影像ノ描出セラレナイコトガ極メテ多ク、カハル際ニ於ケル斷層「レ線」撮影ノ應用價値ニ就テハ岩下ガ曩ニ第2報デ強調シテ置イタガ、今回ノ症例ハ何レモ7歳以上デアツタ爲メ特ニ其ノ必要ヲ感ゼシメラレタヤウナ「フィルム」ニハ遭遇シナカツタ。又續幼兒デハ靜脈内注射サヘモ出来ナイヤウナ例ガアリカハル例ニ對シテハ目下岩下ハ胸骨内注射ソノ他ノ方法ヲ實驗中デアアルガ、之亦今回ノ材料ノ中ニハカ様ナ症例ハ一例モナカツタ。

逆行性撮影例ヲモ包含シテ全例ノ影像ヲ分類シテミルト、1)一、二個乃至數個ノ腎盂ガ擴張乃至輕度ニ崩壞シタモノガ9、2)數ケノ腎盂カラ腎實質ニ及ベル著明ナ空洞形成ガ8、3)膿腫腎ヲ示セルモノガ4、4)全ク排泄像ノ見ラレナカツタモノガ8デアツタ。1)ノ中ニハ重複腎盂兼完全重複輸尿管デ上腎盂領域ノミガ破壊セラレタ Nr.5 ガアリ、4)ノ中ニハ單純撮影ニテ右側ガ部分的ノ、左側ハ全體ニ亘ツテ漆灰腎ヲ示シテキタ Nr.18 ガアル。

一般榮養狀態並ニ發熱 一般ニ小兒ノ結核デハ病竈ガ餘程進捗シタモノデナイ限リ、一般榮養狀態ノ侵サレルコトハ豫想外ニ少イトサレテキル。Klare ハ小兒ニ於テハ結核ト體質、體型トノ間ニハ一定ノ關係ガ認メラレナイコトヲ主張シテ居リ事實虛弱兒ヲ仔細ニ検査シテ見テモ結核ニ緣ノナイモノガ意外ニ多ク、寧ロ主トシテ植物性神經症ニ原因シテキルコトガ多イト云ハレテキル(齋藤)

第4表 小 兒 腎 臟

症 例 番 號	氏 名	年 齡 、 性、 患 側	初 發 症 狀 ↓ 時	尿 意 頻 數	排 尿 痛	血 尿	反 應	膿 球	赤 血 球	結 核 菌	膀 胱 鏡 的 所 見		患 腎 觸 知	腎 盂「V線像」 (R. P. 逆行性) (ソノ他經靜脈)	營 養 狀 態	發 育 前	熱 術 後	
											主 病 菌 部 位	青 排 泄						初 發 時 間
1	濱 田	14, ♂, 右	+	+	4月	酸性	+++	+	+	右輸尿管口 周圍右前壁	>10'	5' 30''	+	不 明	稍 く 不 可	-	-	
2	高 谷	13, ♂, 左	+		3年	ク	+++	-	+	不		明	++	R. P. 全部、著 者空洞	普 通	稽 留	稽 留	
3	山 中	14, ♂, 右	+	+	1月	ク	+++	++	+	全體、特ニ 右輸尿管口 部	>20'	6' 30''	++ 腰痛	上腎盂數ヶ、腎 上腎盂、尿管著明擴大	稍 く 不 可	間 歇	-	
4	北 村	13, ♀, 左	++	++	5月	ク	+++	+	+	全 體	>15'	6' 10''	-	影像(-)	稍 く 不 可	間 歇	-	
5	石 井	15, ♀, 右		+	3年	ク	+++	+	+	右側輸尿管口、其周圍	1) 5' 14'' 2) >10'	3' 20''	-	R. P. 重複腎盂 完全重複尿管、 上部領域全腎盂 崩壊	普 通	-	-	
6	若 林	14, ♂, 右	++		1月	ク	++	-	+	行	ハ	ズ	-	腎盂數ヶ擴大、 崩壊	カ ナ リ	不 可	-	
7	岡 本	12, ♂, 右		+	2月	ク	+++	+	+	右輸尿管口 其周圍	>10'	5' 30''	-	上腎盂1ヶ崩壊	普 通	-	-	
8	岡 田 (興)	14, ♂, 左	++		4月	ク	+++	-	+	行	ハ	ズ	++ 腰痛	上腎盂1ヶ崩壊	稍 く 不 可	微	-	
9	坂 本	14, ♀, 左	+		2月	中性	++	-	-	行	ハ	ズ	-	全腎盂著明擴大 崩壊	普 通	-	-	
10	木 村	7, ♀, 右	+		6月	酸性	++	+	+	行	ハ	ズ	- 腰痛	下腎盂崩壊	稍 く 不 可	稽 留	-	
11	奥 田	14, ♀, 左	+		2月	ク	+++	-	-	左輸尿管口 其周圍	2' 50''	2'	-	R. P. 全腎盂崩 壊、尿管狹窄	ク	弛 張	-	
12	梶 地	15, ♂, 左	++		1月	ク	+++	-	+	全體	10'	>20'	+++	影 像 (-)	普 通	微	-	
13	吉 田	13, ♂, 右	++		1月	中性	+++	-	+	全體、特ニ 右半分	>10'	4'	+	R. P. 上腎盂著 明空洞1ヶ	ク	微	-	
14	岡 部	9, ♀, 右	++		2月	酸性	+++	+	++ 大腸菌	行	ハ	ズ	+	影像(-)	稍 く 不 可	稽 留	-	
15	岡 田 (進)	15, ♂, 左	++		1年	ク	++	++	+	行	ハ	ズ	++	影像(-), 小石 灰像多數	カ ナ リ	不 可	稽 留	稽 留
16	小 管	14, ♂, 右	++		1月	ク	+++	+	-	全體、右輸 尿管口上方 牽引	不	明	-	數ヶ腎盂崩壊、 擴大	稍 く 不 可	稽 留	-	
17	栗 本	13, ♂, 左	+	+	1年	中性	+++	+	-	行	ハ	ズ	-	影像(-)	普 通	微	-	
18	吉 川	14, ♂, 兩	++		7月	酸性	+++	-	+	全 體	9'	>15'	-	單純撮影, 右一 部左全體漆灰腎	ク	-	-	
19	馬 場	14, ♂, 兩	+		1年 4月	ク	+++	-	+	全 體	行	ハ	ズ	-	右: 影像(-) 左: 全腎盂崩壊	ク	稽 留	-

結 核 一 覽 表 例

重 量 (g)	摘 出 容 積 (cm)	腎 所 見	手 術 後 經 過			結 核 家 族 史	結 核 既 往 史	胸 部 所 見	結 核 生 殖 器 副 辜 丸 前 位 腺	耐 他 結 核
			觀 察 期 間	轉 歸	死 活 狀 況 因 由					
110	9.5×5.5×4.5	完成期，中等度癒着，播種性結節型，乳頭崩壞，腎盂結節多數	5年間	生	普 通	—	—	不 明	—	—
220	16.0×5.0×5.0	末期，膿腫腎	3 年	死	肺結核	—	—	—	—	腹膜炎
240	11.0×5.0×7.0	完成期，下極鶏卵大空洞	7年1ヶ月	生	勞 働	—	—	兩側血行性播種，全石灰化	—	—
135	13.0×4.5×6.0	末期，中等度癒着，高度膿腫腎狀	3年7ヶ月	死	殘腎結核	—	—	右肺門腺，全石灰化	—	—
150	10.0×4.7×4.0	完成期，全腎盂空洞	5 年	生	事 務	—	—	〃	—	—
115	8.5×5.0×4.0	完成期，上極ニ播種性結節，上4下極腎盂崩壞	4年6ヶ月	生	普 通	—	—	右肺門，氣管枝腺一部石灰化	兩+	—
105	8.0×6.0×2.7	初期，上腎盂1個崩壞，腎盂結節多數	4 年	生	普 通	—	—	初期浸潤，吸收期	—	—
100	10.0×4.8×3.5	初期，上極ニ小空洞1個	3年3ヶ月	生	普 通	同胞1，副辜丸結核	—	—	—	—
165	11.5×7.0×5.0	完成期，上腎盂1個崩壞，下極ニ拇指頭大空洞	2年6ヶ月	生	普 通	—	8ヶ月前肺門腺結核，3ヶ月治癒	初期浸潤，陳舊	—	—
80	9.0×5.0×3.5	初期，僅力癒着下極空洞1個	1ヶ月	死	結核性腦膜炎	母，喉頭結核死亡	—	右肺門腺全石灰化	—	—
100	9.5×5.0×3.5	完成期，下極ニ拇指頭大空洞1ヶ月，中腎盂崩壞	1年9ヶ月	生	普 通	—	1年前肺門腺結核，1ヶ月治癒	肺癆，増殖性	—	—
290	11.5×7.5×7.0	末期，膿腫腎狀	1年2ヶ月	生	靜 養 頻尿	—	3歳右肘關節結核，現今完全強直	右血行性播種一部石灰化	—	—
115	9.0×5.0×4.0	完成期，上腎盂空洞，腎盂ニ結核結節	1 年	生	普 通 頻尿	—	5歳乾性肋膜炎	左肺門腺全石灰化	—	+
150	9.5×6.5×4.5	完成期，著明癒着，上極中部ニ空洞多數	不 明			父系伯父母，肺結核死亡	—	肺癆，陳舊	—	—
195	11.0×6.0×4.5	末期，膿腫腎狀	2ヶ月	死	結核性腦膜炎	—	8歳肺門浸潤，10歳肋骨カリエ手術治癒	右血行性播種進行	右+	—
260	10.0×4.2×4.9	完成期，上腎盂崩，壞下極空洞2ヶ月，皮質ニ結節多數	10ヶ月	生	普 通	母，肋膜炎	—	初期浸潤，陳舊	—	—
135	11.0×6.0×3.5	完成期，上下極腎盂多數崩壞	6ヶ月	生	普 通	不 明	—	左肺門腺，一部石灰化	—	—
			6ヶ月	死	腎結核	—	—	不 明	—	—
			不 明			同胞脊椎カリエス1，肋膜炎1	—	肺門腺，進行性	—	—

症・例 番 號	氏 名	年 齡、性、患 側	初發症狀		初發 症狀 ↓時	尿				膀胱鏡的所見				患 腎 觸 知	腎盂「V線像」 (R.P. 逆行性) （ソノ他經靜脈）	營 養 狀 態	發 熱 術 後
			尿 意 頻 數	排 尿 痛		反 應	膿 球	赤 血 球	結 核 菌	主 病 竈 部 位	青排泄初發時間						
											右	左					
20	生 田	13, 男, 兩	+		1月	ノ	卅	+	+	行	ハ	ズ	兩 +	右：全腎盂著明 擴大 左：上腎盂支描 出	稍 ノ 不 可	—	
21	小 財	15, 男, 右	+		2月	ノ	卅	—	+	後壁, 右半分		行ハズ	不 明	全腎盂崩壊	普 通	—	
22	多 田	15, 男, 左	+	+	5月	ノ	卅	+	+	不		明	ノ	下腎盂崩壊	稍 ノ 不 可	微	
23	佐々木	13, 男, 兩	+		6月	ノ	卅	—	+	不		明	—	不 明	カ ナ リ	弛 張	
24	村 上	14, 男, 兩	+	+	1年	ノ	卅	+	+	底 部	>10'	4' 20''	右 +	兩側上下腎盂破 壊	稍 ノ 不 可	—	
25	下 留	8, 男, 兩	+	+	1月	ノ	卅	—	+	行	ハ	ズ	兩 +	右：影像(—) 左：上下腎盂破 壊	ノ	弛 張	
26	渡 邊	15, 男, 左	+		1年	ノ	卅	—	+	兩側輸尿管 口, 前, 後 壁	3'	3' 30''	—	R. P. 上腎盂著 明崩壊	ノ	—	

然シ乍ラ、腎臟結核例ノ如キデハ流石ニ榮養狀態ノ多少ナリト侵サレタモノガ多く、我輩等ノ26例デハ、偏側罹患20例中、8例ハ略々普通デアツタガ、10例ハ稍々衰弱シ、2例ハカナリ衰弱シテ居タ。又兩側罹患6例デハ略々普通ト認メラレタモノガ2例、稍々衰弱セルモノガ3例、カナリ衰弱セルモノガ1例デアツタ。即チ全體トシテミルト多少ナリト衰弱セルモノガ過半数(14例)ヲ占メテ居タガ、ソレデモ尙殘ル12例ニ於テハ一見腎臟結核ガアラウナドトハ思ハレナイヤウナ全身狀態ヲ示シテ居タ。兩側例ト偏側例トヲ比較スルト前者ノ榮養狀態ノヨリ惡イコトハ蔽フベクモナイガ、個々ノ症例ニ就テミルト必ズシモ榮養狀態ト腎臟病變度トノ間ニ平行關係ハ見出サレナカツタ。寧ロ同時ニ合併セル爾他器官ノ結核、特ニ我輩等ノ材料デハ生殖器結核ト密接ナ關係ガアリ、副辜丸ノ侵サレタ3例(Nr. 6, 15, 23)ハ3例共總テカナリ衰弱シテ居タコトハ注目サルベキデアラウ。之ニ就テハ更ニ次ノ「爾他結核トノ關聯」ノ項デ詳述シテアル。

發熱ニ就テハ、云フ迄モナク腎臟結核ニ於ケル發熱ニハ結核腎ニ由來セルモノト腎以外ノ爾他器

官結核其ノ他ニ由來セルモノトヲ區別シテ考ヘナケレバナラナイ。而シテ結核腎ヨリノ發熱ハ、勿論多少ノ例外ハアラウガ、一般ニハ結核病竈ソレ自身ニ原因スルモノデハナク、膿尿ノ滯留ガ主ナ原因ヲナシ、ソノ外ニ稀デハアルガ他ノ細菌ノ混合感染ガ舉ゲラレ、然ラザル場合ハ大體ニ於テ無熱ニ經過スベキ性質ノモノトサレテキル(恩田)。然シ乍ラ成人ニ於テ或程度迄首肯シ得ラレルカ、ル所論ハ、元來溫熱中樞ノ過敏ナ小兒ニハ必ズシモソノ儘適用ハ出来ナイ。

今、我輩等ノ全26例ヲ手術後ノ熱型トモ脫ミ合セテ分類シテミルト、終始無熱ノモノガ10例、明カニ結核腎ニ由來シテ發熱セルモノガ10例、一部ハ腎臟ニ由來シテキルデアラウガ主トシテ腎以外カラ發熱セリト認メラレタモノガ2例(肺病變、腹膜炎)、手術シテキナイ爲其ノ何レトモ判斷シカネタ發熱例ガ4例デアツタ。明カニ結核腎ニ由來セル發熱10例ノ熱型ハ稽留熱3、間歇熱2、弛張熱1、微熱4デアツタガ、問題ハソレ等ヲ仔細ニ檢討シテミルト、中7例迄ガ特ニ膿腫腎狀ヲ呈シテキルデモナク、又他ノ細菌感染モ見ラレナカツタコトデアル。此ノ點ハ成人ノ場合ト比較シテ著

重 量 (g)	摘 出 腎		手 術 後 經 過				結 核 家 族 史	結 核 既 往 史	胸 部 所 見	生 殖 器 副 睾 丸	結 核 前 位 腺	爾 他 結 核
	容 積 (cm)	所 見	觀 察 期 間	轉 歸	生 活 狀 況 因	膀 胱 症 狀						
			不 明				—	—	—			—
			5 年	生	普 通	頻尿	—	—	右肺門腺全 石灰化	—	—	—
			不 明			母：肺結核，同 胞腹膜炎1，腸 結核2，凡テ死 亡	11歳乾性肋膜炎 12歳肺炎浸潤	—	不 明	—	—	—
			6 月	死	腎結核	母：肋膜炎，同 胞2，腹膜炎死 亡	—	—	—	兩 +	+	—
			1 年	死	腎結核		—	5歳肺門腺結核 3ヶ月治	左血行性播種 全石灰化	—	—	—
			3ヶ月	死	肺結核		—	—	兩側血行性播 種，進行性			—
			6ヶ月	死	肺 炎		—	—	—			—

シク相違シテキル點ト云ハナケレバナラナイ。3例ハ微熱デアツタガ，殘ル4例ノ發熱ハ比較的高ク，殊ニ腎病變ハ剖合初期デアリ乍ラ術前 38°Cモノ稽留熱ナ示シテキタ Nr. 10 ナドハ其ノ好適例ト云ヘヨウ。同様ノコトハ植田ノ統計ニ於テモ強調サレテキル。

手術及ビ手術後ノ經過ト摘出腎所見 17例ニ手術シタノデアルガ，スベテ比較的年長兒デアツタ爲，大部分ハ腰椎麻酔スデ行ヒ，「エーテル」ノ附加麻酔ヲモ必要トシタモノハ僅カニ2例シカナカツタ。術式ハ成人ト全ク同様ニ Bergmann-Israel 腹膜外斜切法ニヨツタガ，一般ニ云ハレテキルヤウニ小兒デハ成人ニ比シテ手術ソノモノハ遙カニヨリ容易デアツタ。Noeggerath-Nitschke ハ小兒ニ於テハ腎被膜ノ共ニ侵サレルコトガ成人ノ際ヨリヨリ多ク且ヨリ高度ナコトヲ指摘シテキルガ，カ様ナ所見ハ全然認メラレナカツタ。

手術後ノ經過ハ，手術年度ニヨツテ觀察期間ハ6ヶ月カラ7ヶ年ニ亘ツテキルガ，死亡4例 (23%)，生存12例 (76%)，不明1例ニナツテキル。生存12例ノ觀察期間ハ6ヶ月乃至1年未滿2例，1—3年4例，3年以上6例デ，之等ノ中現ニ膀胱

症狀ニ悩メルモノハ僅カニ2例 (Nr. 12, 13) デデ他ノ10例デハ尿涸濁ノ有無ハ判然トシナイガ兎ニ角膀胱症狀ハナクナリ普通ニ生活セルモノデアツタ。死亡4例ハ術後夫々1ヶ月，2ヶ月ノ腦膜炎ニヨレルモノ2例 (Nr. 10, 15)，術後3ヶ年—3年7ヶ月ニテ夫々肺結核，殘腎結核ニヨレルモノガ1例宛ニナツテキル (Nr. 2, 4)。

蓋シ以上ノ術後經過ヲ單ニ死亡率丈カラ觀察シテミルト，Falci ノ25例中11例 (44%)，植田ノ19例中6例 (31.5%)，小池ノ8例中5例 (62%)ニ比スルト稍々低イガ，曩ニ山田ガ調査セル當教室ニ於ケル腎臟結核全體ニ就テミタ19.1%，志賀前教授ノ17.2%ニ比スルト稍々高クナツテキル。尤モ觀察期間ノ長短，症例數ノ相違等ニヨツテ腎臟結核全體ノ死亡率ニ就テハ文獻ニモ互ニカナリ隔ツタ數字が見ラレテキルカラ，以上ノ數字カラ經過ノ良，不良チー概ニ斷定スルコトハ勿論差控ヘルガ，我々ノ今回ノ調査成績ハ一般ニ豫後ノ不良トサレテキル小兒腎臟結核トシテハカナリ良好ノ方デアツタ。恐ラク比較的年長兒ガ主ナ對象トナツテキタ爲デアリ，10歳未滿ノ2例デハ，中1例 (Nr. 14) ハ不明デアルガ，他ノ1例 (Nr. 10) ハ矢

張り死亡シテキル。

摘出腎臓ハ、表示ノ如ク重量、容積ハ年齢的ニ見タ正常腎ニ比シ程度ノ差コソアレモ増大シテ居リ、病理解剖的ニハ Wildbolz ノ分類ニ從フト、播種性結節型ガ2例デ此ノ兩例ニハ共ニ初期ノ乾酪性空洞性變化ガ伴ツテ居リ (Nr. 1 及 6)，殘ル15例ハ總テ乾酪性空洞型デ、初期ガ3例、完成期ガ10例、末期ガ4例デアツタ。I. Aschoff ニヨルト小兒ニ於テハ成人ニ比シテ慢性播種型乃至結節型ガヨリ屢々見ラレトサレテ居ルガ、カ、ル傾向ハ全然認メラレナカツタ。植田、北川・渡邊ノ小兒例デモ同様デアル。

注目スベキコトハ、術後ノ經過ト腎病變度トノ間ニ或程度ノ關係ガ窺知シ得ラレタコトデ、末期ト認ムベキ4例ハ、中3例迄 (Nr. 2, 4, 15) ガ遅カレ早カレ死亡シテ居リ殘ル1例 (Nr. 2) モ亦術後1年2ヶ月ニナルガマダ靜養ノ域ヲ脱シテキナイノニ對シ、初期及完成期ノ12例デハ、中1例

(Nr. 10) ハ腦膜炎ニテ死亡シタガ、他ハ何レモ術後普通ニ生活シテ居リ、特ニ靜養シテキルヤウナモノハ1例モナカツタ。勿論之ニハ爾他結核トノ關聯モ考慮サレナケレバナラナイガ、小兒腎臟結核手術例ノ豫後ノ不良ナツノ理由トシテ成人ニ比ベ早期診斷例ノ少イ點ヲ指摘セル Eliasberg ノ所説ガ茲デモ充分肯定セラレタ。

附) 非手術例ノ經過：9例中偏側罹患ノ2例、兩側罹患ノ4例、計6例ニ於テ判明シタガ、兩側例ハ初診後3ヶ月乃至1ヶ年以内ニ總テ死亡シテ居リ、3例ハ尿毒症、1例ハ肺結核ガ原因ヲナシテキタ。偏側例デハ1例ハ初診後6ヶ月ニテ肺炎ニテ死亡シテ居ルガ、他ノ1例 (Nr. 21) ハ既ニ5ヶ年ヲ經過シテキルガ特ニ靜養スル程デモナク普通ニ生活シテ居ルコトハ稍々注目サルベキデアル。此ノ例ハ15歳ノ男デ初診時全身狀態ニモ特記スベキ所見ガナク、靜脈注射「線」撮影ニテ右側ノ全腎盞ガ崩壞シテキタモノデアル。

II 爾他結核トノ關聯ニ就テ

本論文ノ重點ハ冒頭ニモ述ベタ如ク本項ニアルノデ、出來ル丈詳細ニ調べタ。

結核ノ家族及ビ既往史トノ關係 腎臟ニ限ラズ一般ニ小兒、殊ニ幼兒ノ結核デハ成人ノソレニ比スルト家庭内感染ガ極メテ重大ナ役割ヲ演ジテキル。從ツテ勢ヒ茲デモ當然結核ノ家族史ガ成人ノ場合ヨリヨリ大ナ意味ヲ持ツコトニナルノデアアルガ、我輩ノ今回ノ材料デハ此ノ事ガカナリ如實ニ示サレタ。即チ至26例中7例 (26.9%) ニソレガ認メラレタガ、之ハ山田ガ曩ニ本教室ニ於ケル略々同年間ノ腎臟結核全體ニツイテ調べタ542例中36例 (6.6%) ニ比較スルト著シクヨリ高率ヲ示シテ居ル。同様ノコトハ、%コソ違フガ、東大ニ於ケル高橋教授等ノ一般腎臟結核ニ就テノソレ (33.9%) ト植田氏ノ小兒例ノミニ就テノソレ (52.6%) トヲ對比シテモ肯ケルガ、更ニソレ等7症例ヲ仔細ニ調査シテミルト次ノ様ナ事實ガ認メラレタ。母ノ結核ガ2例 (喉頭肋膜炎)、母ト同胞ノ結核ガ2例 (母ハ肺、肋膜炎、同胞ハ腹膜炎、腸結核)、同胞ノ結核ガ2例 (骨、泌尿器、肋膜炎)、父系伯父母ノ結核ガ1例 (肺) デ、注目サルベコトニハ父ノ結核ガ1例モナカツタコトデアル。ツマリ常ニ子供ニ接シテキル母乃至同胞ノ結核ガ重大ナ役割ヲ演ジテキタコトガ茲デモ明カニ指摘セラレタ。

結核ノ既往史ニ就テハ、之亦偶然デハアルガ26例中7例 (26.9%) ニ見ラレタ。3例ニハ肺門腺結核、1例ニハソレト同時ニ「肋骨カリエス」、殘ル3例ニハ夫々肘關節結核、乾性肋膜炎、乾性肋膜炎+肺炎浸潤ノ歴史ガアツタ。初診時ヨリ遡ルコト短キハ8ヶ月、長キハ12年前ノ罹患デ、現在ハ何レモ治癒狀態ニアツタモノデアル。總テ醫治ヲウケタ確實ナモノ丈ヲ拾ツタノ

デアリ、頸部淋巴腺腫脹ノ如キハ必ズシモ結核性トハ限ラナイノデ除外シテアル。蓋シ此ノ數字ヲ山田ノ腎臟結核全般ニツイテノ數字(35.9%)ト對比シテミルト僅カデハアルガヨリ低率ヲ示シテ居ルガ、此ノ事實ハ決シテ單ナル偶然トシテ葬リ去ルコトハ出來ナイ。ト云フノハ、東大ニ於ケル調査(高橋教授等ノ腎臟結核全般ニ就テノ 58.8% ト植田氏ノ小兒例ニツイテノ 36.7%)、又慶大ニ於ケル北川氏等ノ統計(55.8—68.5%ト30.7%)ニ於テモ全く同様ノ事實ガ明カニ看取シ得ラレルカラデアル。ツマリー言ニシテ云ヘバ結核ノ既往歴ハ成人例ニ比シテ小兒例デハヨリ少イト云ヘル。既ニ述ベテアル慢性腎臟結核ガ一般ニ小兒ニハ少イト全く同ジ理由カラ説明シ得ラレル事實デアラウ。肺門腺結核ノ如キ所謂第一期結核ガ之等結核既往史ノ過半数ヲ占メテキタ事實ナドヲ併セ考ヘルト、斯様ナ説明ノ妥當性ガ一層肯定出來ル。

胸部結核ノ合併狀況 小兒腎臟結核例ニ就テ此ノ問題ヲ少シク突込シテ檢討シタ記載ハ殆ド見當ラナイ。Eliasberg ハ小兒ノ慢性腎臟結核ニ於テハ初期變化群ト該腎臟病竈トガ唯一ノ結核病竈デアルト云ヒ、Campbell モ亦其ノ著 *Pediatric Urology* ノ中デ、體ノ何レカニ活動性結核病竈ヲ持テルモノハ泌尿器結核ヲ起スコトハ比較的小イト云フテキルガ、兩者共ニソレ以上ニハ何等論及シテキナイ。又植田氏ハ19例中9例ニ、北川・渡邊兩氏ハ37例中18例ニ肺病變ヲ見テキルガ、ソノ病變ガ果シテ如何ナル性質ノモノデアルカニ就テハ共ニ全然記述シテキナイ。勿論慢性腎臟結核ヲ起シテキルヤウナ例デハソノ殆ド總テニ肺ニ何等カノ所見ヲ見出サレルコトハ寧ロ當然デアツテ、我輩等ノ今回ノ材料デモ不明ノ3例ヲ除ケル23例中18例(78.2%)迄ニハ「レ線學的」ニ何等カノ所見ガ見ラレタ。然シ問題ハ其ノ所見ガ全く治癒狀態ニアルカ、治癒シテキナイ迄モ比較的良性ノモノデアルカ、或ハ惡性ノ進行性ノモノデアルカノ點デアツテ、蓋シ此ノ線ニ沿フテ我輩等ノ材料ヲ整理シタ結果ハ第5表ノ如クニナツタ。云フ迄モナク

第5表 胸 部 所 見

	偏側腎 罹患例	兩側腎 罹患例	計
認ムベキ所見ヲ缺ケルモノ	3	2	5
初 期 浸 潤 陳舊吸收期	2 1		2 1 } 3
肺門、氣管枝 腺結核 { 全ク石灰化 { 一部石灰化 { 進行	5 2 0	1	5 2 1 } 8
小兒期血行性 播種症 { 全ク石灰化 { 一部石灰化 { 進行	1 1 1	1 1	2 1 2 } 5
小 兒 肺 癆 { 陳舊性 { 増殖性	1 1		1 1 } 2
不 明	2	1	3

シテミルト次ノ如クナル。認ムベキ所見ノナイモノ乃至ハ治癒狀態ニアルモノ15例、治癒シナイ迄モ著シク良性ノモノ5例ニテ、明カニ進行性ト認ムベキ病變ハ僅カニ23例中3例(13.0%)

小兒肺結核ノ分類法ハ成人ノソレトハ稍ミ異リ一般ニハ1) 初期浸潤、2) 氣管枝淋巴腺結核、3) 結核性肋膜炎、4) 小兒期血行性播種症、5) 早期浸潤、6) 小兒肺癆ニ分類サレテキルカラソレニ則ツタノデアルガ、同一例ニ幾ツカノ所見ノアツタモノデハソノ中ノ主所見ヲトツテ表示シタ。

即チ之ニヨルト、氣管枝淋巴腺結核ガ最も多ク、認ムベキ所見ヲ缺ケルモノ及ビ小兒期血行性播種症之ニ次ギ、以下初期浸潤、小兒肺癆ノ順ニナツテキルガ、之ヲ病竈ノ性質カラ分類シ

(Nr. 15, 19, 25)シカナカツタ。1例ハ氣管枝淋巴腺結核、他ノ2例ハ小兒期血行性播種症デアツタ。蓋シ此ノ結果ヲ成人ニ就テ比較の詳細ニ検査セル金子・杉崎兩氏ノ成績(137例中96例70.1%ニハ肺ニ病變ヲ認メ、ソレヲ中進行性ノモノハ22例16.1%)、又進行性肺病變ノ合併率トシテ擧ゲタ Young ノ28%、Persson ノ22.4%等ト對比シテミルト、小兒腎臟結核例デハ肺ニ進行性結核ヲ合併スルコトガ成人ノソレニ比シテ稍ミヨリ少イコトガ大凡ソ看取出來ルヤウニ思フ。勿論之ガ斷定的結論トシテ許容シ得ラレルカ否ガハ更ニ今後ノ研究ニ俟ツベキデアラウガ、我輩等ノ今回ノ結果ハ兎ニ角囊ニ記シタ Eliasberg, Campbell 等ノ所說ヲ明カニ肯定シタ。尙稍ミ注目セラルベキコトトシテハ、勿論小兒デアルカラ當然デハアラウガ良性ニセヨ進行性ニセヨ氣管枝淋巴腺結核ガ全例ノ35%モノ多數ニ見ラレタコトト、成人例デハ少數ヲ合併シテ見ラレル肋膜炎ガ茲デハ1例モ見ラレナカツタコトトデアル。

而シテ次ニ之等胸部所見ト腎臟ノ病變狀況トノ關係デアルガ、先ツ病變度ニ就テハ、全例ヲ概觀スルトコノ兩者ノ間ニハ極一部ノ人ガ主張シテ居ルヤウナ平行關係ハ全然見出サレナカツタ。然シソウカト云フテ之迄多クノ人ニヨリ強調セラレテキル兩者間ニ於ケル反撥的關係モ個々ノ病變度ニ關スル限り殆ド認メルコトハ出來ナカツタ云ツテヨイ。唯然シ、胸部ニ認ムベキ所見ヲ缺イタ例ガ、偏側罹患18例中ニハ3例シカナカツタノニ對シ、兩側罹患5例中ニハ2例モアツタコトハカナリ注目スベキコトデ、此ノ點ハ兩者間ノ反撥的關係ヲ或程度迄許容シテキルト云ヘナイコトモナイ。尙、特ニ附記スル迄モナイコトデアルガ、淋巴系ニヨル偏側性傳播ノ理由トシテ極一部ノ人ガ主張シテキル兩者ノ罹患體側の關係ハ、固ヨリ全然見出サレナカツタ。

生殖器結核ノ合併狀況 副睪丸ト攝護腺トノ結核ガ問題ニナルノデアルガ、一體小兒、殊ニ幼兒ニ於ケル之等生殖器結核ハ腎臟結核ニ比ベルト更ニ頻度ノヨリ少イモノデアリ、而モ多クハ生殖器結核單獨トシテ現レ、尿路結核ニ合併シテ來ルコトハ成人ニ比ベルト極メテ少イトサレテキル。之ニ就テハ岩下ハ近ク發表スル第4報ニ於テ詳シク述ベル積リデキルガ、試ミニ二三文獻ニ見ラレタ小兒腎臟結核ト腎臟結核全般トニ就テ之等生殖器結核ノ合併狀況ヲ比較シテミテモコノコトハ明カニ看取出來ル。例ヘバ男子腎臟結核デハ植田氏ハ15例中僅カニ2例宛ニ副睪丸結核、攝護腺結核ヲ(夫々13.3%)、北川・渡邊氏ハ24例中3例(12.5%)ニ副睪丸結核ヲ見出シテキルニ止マレルニ反シ、男子腎臟結核全般ニ就テハ高橋教授等ハ副睪丸結核ヲ35.1%攝護腺結核ヲ34.5%、北川教授等モ亦夫々27.1%、16.9%ノ數字ヲ見テキル。コノ事實ハ蓋シ我輩等ノ今回ノ材料ニ於テモカナリ明瞭ニ認メラレ、當教室ニ於ケル腎臟結核全般ニ就テノ山田ノ男子325例中副睪丸結核25.5%、攝護腺結核41.2%ニ對シ、今回ノ小兒例デハ男子17例中副睪丸結核ヲ合併シタモノハ3例(17.6%)、攝護腺結核ヲ合併シタモノハ2例(11.6%)ニ過ギナカツタ。而モ之等ノ中1例(Nr. 23)ハ同時ニ副睪丸及ビ攝護腺結核ヲ俱有シテキタモノデアルカラ結局生殖器結核合併ハ全17例中4例シカナカツタコトニナル。副睪丸罹患ハ偏側1例、兩側2

例デ、特ニ注目スベキコトトシテ之等生殖器結核合併例ガ總テ13歳以上デ、ヨリ若年者例ノ一例モナカツタコトハ、此ノ種ノ合併ガ幼少ニナレバナル程愈ミ少クナルコトヲ雄辯ニ物語ツテキル。同時ニ見ラレタ胸部所見トノ間ニハ一定ノ關係ハ見出サレナカツタ。

胸部、生殖器以外ノ結核ノ合併 Eliasberg, Campbell ノ所説ヲ藉リル迄モナク上ニ述ベタ胸部及ビ生殖器結核ノ合併狀況ヨリシテ此ノ種ノ合併モ亦成人ニ比シテヨリ少イコトハ想像ニ難クナイガ、事實我輩等ノ例デモ僅カニ1例ニ結核性腹膜炎(Nr. 2)が見ラレタニ過ギナイ。肺ニハ認ムベキ所見ヲ缺キ、腎臓ハ膿腫腎狀ヲ示シ、腹膜炎ニ原因セル不規則ノ稽留熱ノアツタ例デアル。英國ノ Addison(1935)ハ西 London 病院デ10例中7例ニ他臓器ニ進行性結核ガアリ、骨及ビ關節結核ノ合併ガ比較的多ク、尋常性狼瘡モ1例アツタコトヲ記述シテキルガ、我輩等ハ斯様ナ傾向ヲ認メルコトハ出来ナカツタ。尤モ既往史トシテハ2例(Nr. 12, 15)ニ夫々骨及ビ關節結核が見ラレタガ、1例ハ12年前ノ肘關節結核ガ既ニ全ク強直シテ居レルモノデアリ、他ノ1例ハ5年前ニ行ツタ「肋骨カリエス」手術ノ癰痕治癒例デアルカラ、共ニ合併症トシテハトリ舉ゲベキ性質ノモノデハナカツタ。尙 Noeggerath-Nitschke ハ、曩ニ摘出腎所見ノ項デモ一寸觸レタガ、小兒デハ成人ニ比シ腎被膜ガ共ニ侵サレルコトガヨリ多イカラ、ソレニ原因シタ寒性膿瘍ガ稀ナガラ見ラレルト云フテキルガ、斯様ナ例ハ全然見ラレナカツタ。

即チ以上ヲ要スルニ、小兒腎臓結核例ニハ成人ノソレニ比シテ他臓器ニ少クとも進行性ノ結核ヲ伴フコトガヨリ少ク、而モ此ノ傾向ハ幼少ナレバナル程顯著ナコトヲ略々歸納シテ差支アルマイガ茲ニ稍々注目サルベキ事項トシテ、一般榮養狀態トノ關係ガ附記サレナクレバナラナイ。蓋シ一般榮養狀態ガ腎臓ノ病變度トハソレ程密接ニ關聯シテ居ナイコトハ前項ニモ述ベタガ、仔細ニ檢討シテミルト肺ソノ他ノ所見ヨリモ寧ロ副睪丸結核トノ間ニカナリ密接ナ關係ノ認メラレタコトハ稍々意外デアツタ。全身狀態ノカナリ衰弱シテキタ3例ハトリモ直サズベテ副睪丸結核合併例デアリ、ソノ中ノ1例(Nr. 15)ニハ肺ニ進行性病變が見ラレタガ他ノ2例(Nr. 6, 23)ノ胸部ニハ共ニ大シタ病變ノ認メラレナカツタモノデアル。單ナル偶然トシテ片附ケラルベキ事柄デハナイト思フ。

手術後ノ經過ト爾他トノ關係 手術後ノ經過ト腎臓病變度トノ間ニ比較的密接ナ關係ノ見ラレタコトハ前項ニ述ベタ。コノコトハ姑ク別トシテ、一般ニ小兒腎臓結核手術例ノ豫後ガ成人ノソレニ比ベテ不良ナコトハ之モ一樣ニ指摘セラレテ居リ、我輩等ノ今回ノ材料ニ於テモ略々裏書セラレタ(前項)。蓋シソノ原因トシテハ、今日一般ニハ漠然ト小兒デハ結核ニ對スル局所竝ニ全身免疫ガ未ダ充分ニ出来テキナイ爲デアルト説明セラレテキル。然シ乍ラ此ノ原因ヲ更ニ少シク具體的ニ堀リ下ゲテ追求シテミルト、畢竟ハ欠張り結核ニ對スル不充分ナ免疫ニヨツテ説明ハセラルルコトニナラウガ、一ツニハ手術ソノモノニヨル原因ト他ニハ手術トハ直接關聯ノナイ原因トニ分ケテ考ヘルコトガ出来ヨウ。

先ヅ手術ソノモノニヨル原因トシテハ、今日一般結核腎摘出術ソレ自身ガ爾他器官ニ於ケル

少クトモ既存結核ニ惡イ影響ヲ及ボスコトハ殆ドナイト云フノガ通則ニナツテキルガ、此ノ事ハ小兒例ニ就テモ其ノ儘適用セラレル。ト云フノハ、植田ノ19例ヲ見テモ、北川・渡邊ノ8例ニ於テモソウデアリ、我輩等ノ今日ノ17例ニ於テモ全く同様デアツタカラデアル。我々ノ例ノ中ニハ術前2例ニ活動性ノ、一ハ肺ノ血行性播種症(Nr. 15)、他ハ腹膜炎(Nr. 2)ガアリ共ニ稽留熱ヲ伴ツテキタガ、之等ノ例デモ少クトモ手術ソノモノニヨツテ病竈ガ増悪シタヤウナ徴候ハ全然認メラレナカツタ。然シ乍ラ唯茲ニ最モ注目セラルベキ事實ハ、我々ノ17例中ニ於ケル唯一ノ手術死亡(1ヶ月, Nr. 16)、近期死亡(2ヶ月, Nr. 15)ノ2例ノ死因ハ共ニ結核性腦膜炎デアツタ點デアル。斯様な例ハ植田、北川・渡邊等ノ症例中ニハ見出サレナカツタガ、今之ヲ彙ニ山田ガ542例ノ腎臟結核全般ニ就テ調査シタ手術乃至近期死亡39例中結核性腦膜炎7例ト對比シテ見テモ、又一般ニ小兒ニ於ケル結核性腦膜炎ノ頻度ガ成人ニ比シテ著シク大イ事實(例ヘバ Biedert ノ各種結核性疾患ニ對スル發生頻度大人8%, 小兒26%)等ヨリ考ヘテ見テモ、小兒腎臟結核手術例ニ於テハ略々次ノコトガ結論シ得ラレルノデハナイカト思フ。即チ手術ソレ自身ニヨツテ既存ノ爾他結核ガ増悪スルヤウナコトハ殆ドナイガ、結核性腦膜炎ヲ惹起スル危險性ガ成人ニ比ベテヨリ大イト云フコトデアル。蓋シカハル危險性ト肺其他ノ結核病變或ハ腎臟病變トノ關聯ニ就テハ、少クトモ我輩等ノ2例カラハ一定ノ結論ヲ導キ出スコトハ出来ナカツタガ、一般ニ成人ニ於ケル結核性腦膜炎ガ肺結核ノ末期ニ現レルコトガ多イニ反シ小兒ノソレハ一見腦膜炎ナドハ起シソウモナイ榮養佳良ナ例ニ少クナイ事實ヲ、茲デモ充分念頭ニ入レテオクベキデアラウ。

次ニ豫後不良ノモウツノ原因トシテハ、手術トハ直接何等關聯ノナイコトデアルガ、元來小兒ガ成人ニ比ベテ結核ニ對シ抵抗ノ弱イ點ガ指摘サレナケレバナラナイ。コノコトハ結局、手術ソノモノニヨル影響ヲ大體除外シテ差支アルマイト思ハレル晚期(術後6ヶ月以降)ノ經過ヲ支配シテ居ルノデアルガ、之ガ爲ニ爾他結核ガ新ニ發病シテクルコトモアラウシ、又既存結核ノ増悪スルコトモアラウ。然シ、此ノ際ニハ手術ソレ自身ニヨル影響ノ際トハ稍々異リ必ズシモ腦膜炎ガ主役ヲ演ジテキルトハ思ハレナイ。ト云フノハ、勿論腦膜炎モ充分起リ得ルワケデアラウガ、我々ノ材料ニヨル晚期死亡2例デハ一ハ術後2年ニ新ニ肺結核ガ現レ術後3年ニシテ死亡シ(Nr. 2)、他ハ何時頃カラカ不明デアルガ殘腎結核ニヨル尿毒症デ3年7ヶ月後ニ死亡シ(Nr. 4)、腦膜炎ハ1例モナカツタカラデアル。

蓋シ以上、手術ソノモノニヨル腦膜炎發生ノ危險性ニシテモ、又晚期經過ヲ支配シテ居ル對結核抵抗力ノ薄弱ナ點ニシテモ年齢ガ若ケレバ若イ程大ナコトハ理論的ニモ當然ナコトデアツテ、事實我輩等ノ今回ノ材料ニ於テモコノコトハ明瞭ニ認メラレタ。手術例中經過ノ判明セル唯一ノ10歳未満例(Nr. 10)ハ腦膜炎デ斃レテ居ル、又非手術6例ニ於テモ唯一ノ10歳未満例(Nr. 25)ガ最先ニ肺結核デ死亡シテキルコト等ハ此ノ間ノ消息ヲ雄辯ニ物語ツテキル。

總 括 並 ニ 結 語

小兒ニ於ケル泌尿器科の疾患検索ノ一環トシテ、北大ニ於ケル16ケ年間ノ小兒腎臟結核26例ヲアラル角度カラ検討シ、特ニ爾他結核トノ關聯ニ就テ詳論シタ。

1) 頻度、年齡的關係ヲ始メ腎臟所見、手術等ニ亙レル一般事項ニ就テハ、特ニ從來ノ記述ニツケ加ヘラルベキコトハ少カツタガ、唯成人ノソレニ比ベテ、尿中結核菌ガカナリヨリ高率ニ見出サレタコト、結核腎ソレ自身ニ由來セル發熱ガ相當ヨリ多ク而モカナリ高熱例モ少クナカツタコト、早期診斷例ガヨリ少カツタコト等ハ今回特ニ注目セラレタ。早期診斷例ノ少カツタコトガ結局豫後不良ノ少クトモ一部ノ原因ヲナシテキタコトハ、實際末期手術例ノ經過ガ殆ド總テ芳シクナカツタ事ニヨツテ一層裏書キセラレタ。

2) 爾他結核トノ關聯ニ就テハ、從來突キ込シタ記載ガ殆ド缺ケテキルガ、先ヅ家庭内感染ニ就テハ一般小兒結核ノ例ニ洩レズカナリ濃厚ニ認メラレタ。結核ノ既往史ハ成人ノ場合ヨリ一般ニヨリ少ク、當然デハアラウガソノ中デ比較的多カツタノハ肺門腺結核デアツタ。

現ニ合併セル爾他器官結核モ亦、少クトモ進行性病竈ニ關スル限り成人ノソレヨリ稍ミヨリ少カツタ。コノ點ハ小兒腎臟結核デハ腎臟病竈ガ體內ニ於ケル唯一ノ活動性結核病竈タルコトガ多イト云フ Eliasberg ノ所説ヲ或程度迄裏書シテキタ。小數ニ胸部及生殖器病變ガ、1例ニ結核性腹膜炎が見ラレタ。

胸部病變ト腎臟病變トノ間ニハ、平行的關係ハ勿論デアルガ、反撥的關係モ個々ノ例デハ明カニハ認メラレナカツタ。稍ミ注目サレタコトハ、一般營養狀態ガ胸部病變トモ又腎臟病變トモソレ程密接ニ關聯シテ居ナイデ、副辜丸結核併發例ノミニカナリ低下シテキタコトデアル。少シク意外ノ感ガナイデモナカツタガ、單ナル偶然デハナイト思フ。

手術後ノ豫後ガ成人例ニ比ベテ一般ニ不良ナコトハ今回モ明カニ認メラレタガ、手術ソノモノガ直接爾他器官ノ既存結核ニ悪イ影響ヲ及ボシタヤウナ例ハ1例モナカツタ。唯然シ手術乃至近期死亡ノ原因トシテ結核性腦膜炎發生ノ危險性ガ成人例ニ比シテヨリ大キナコトハ爭ヘナイ事實デアツタ。蓋シ斯様ナ事實ト共ニ、手術トハ直接關聯ハナイガ晩期經過ヲ支配シテキル小兒元來ノ對結核抵抗脆弱性トガ、結局小兒腎臟結核手術例ノ豫後ヲ不良ナラシメテ居ル大キナ原因デアラウト思フ。

終リニ以上アゲタ諸事實ガ同ジク小兒デモ若ケレバ若イ程ヨリ顯著ニ認メラレタコトヲ特ニ附記シテオク。

本研究ハ文部省科學研究費ニ負フ處ガ少クナイ。附記シテ謝意ヲ表ス。

文 獻

- 1) Addison: Brit. Med. (4, II, No. 3899), p. 565, 1935
- 2) Campbell: Pediatric Urology, Vol. 1, p. 509, 1937.
- 3) Chesin: Ref. Ztschr. f. urol. Chir. Bd. 42, S. 293, 1933.
- 4) Ekehorn: Dtsch. med. Wschr. Nr. 15, S. 615, 1926.
- 5) Eliasberg: Jahrb. f. Kinderheilk. Bd. 99, S. 13, 1922.
- 6) 井上東: 醫事公論, 1377號, 38頁, 昭13.
- 7) 金子榮壽, 杉崎勇: 日泌尿會誌, 22卷, 213頁, 昭8.

- 8) 北川正惇, 渡邊謙一: 日泌尿會誌, 23卷, 469頁, 昭9. 9) Klasson: Ztschr. f. urol. Chir. Bd. 43, S. 194, 1937. 10) 小泉盛雄: 東北醫誌, 29卷, 288頁, 昭16. 11) Mathé: Surg. Gynec. a. Obst. Vol. 63, p. 283. 1936. 12) 室橋豐穗: 兒科雜誌, 46卷, 1316頁, 昭15. 13) 中村政司: 簡明小兒科學, 昭3. 14) Noeggerath-Nitschke: Hdb. d. Kinderheilk, Pfaundler-Schroßmaun, Bd. 4, S. 187, 1931. 15) 恩田甚四郎: 日泌尿會誌, 23卷, 624頁, 昭12. 16) 齋藤良象: 臨床小兒結核學, 昭13. 17) 里見長平: 兒科雜誌, 45卷, 276頁, 昭14. 18) 高橋明, 植田貞三: Ztschr. f. urol. Chir. Bd. 35, S. 155, 1932. 19) 高橋明外數氏: 皮尿誌, 33卷, 981頁, 昭8; 46卷, 256頁, 昭14. 20) 富川梁次: 福岡醫大誌, 29卷, 337頁, 昭11. 21) 植田貞三: 皮尿誌, 35卷, 371頁, 昭9. 22) 山田正己: 日泌尿會誌, 31卷, 321頁, 420頁, 昭16; 32卷, 277頁, 昭17.

(特掲 昭和18年12月1日受付)